

一日一筆

お念仏散華

日々のお念仏をLINEにて自動記録
お念仏日記

法然上人がお示し下さったお念仏のみおしえ。
“知る・理解する”ことから、
実際にお念仏することを日々の生活に取り入れ、習慣化し、
「いきいき暮らす」ことに繋げていただきたい思いを込めて、
LINE上に便利な機能をつくりました。



友達登録で
すぐにご利用
いただけます



浄土宗について

宗祖 法然上人〔源空〕(1133-1212)

開宗 承安五年(1175)

本尊 阿弥陀仏〔阿弥陀如来〕

阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ、「南無阿弥陀仏」とみ名を
称えて、人格を高め、社会のためにつくし、明るい安らかな毎
日を送り、お浄土に生まれることを願う信仰です。

お経 お釈迦さまがお説きになった『無量寿経』『観無量寿経』『阿
弥陀経』の三部経をよりどころとします。

みなさまへ

私たちはみんな「幸せになりたい」と思って生きています。

そのための手段や行き先は違っても、
心の底で「幸せ」を求めていることに、変わりはありません。
その「幸せ」への第一歩は「自分の良い所も悪い所も認め、
受け止め、生きてゆく」ということにあります。

法然上人(ほうねんしょうにん)が850年前に開いて下さった

お念仏の教えは、あなたが

「自分自身を見つめ、行く先を見据え、幸せを願い、生きてゆく」

その支えとなるものです。(信機信法)

日々のお念仏は幸せへの第一歩

仏様が、目の前に差し出して下さっている「救いの御手(みて)」

その縁(えにし)を大切に

仏教の中でも最高の功德をもたらしてくれる実践行

「なむあみだぶつ」を

『一日一筆お念仏散華』『お念仏日記』を頼り・励みとして、

ともに毎日続けてみませんか。



知恩院蔵『法然上人行状絵図』巻六段三

関連ページ



浄土宗



埼玉教区



開宗850年

日々お念仏をとねえ、1年間で散華を完成させましょう。



使い方

1 南

2 無

3 阿

4 弥

5 陀

6 佛

1

一日にお称えするお念仏（日課念仏）の遍数を決めます。

2

①で決めたお念仏の遍数を、「日課念仏〇遍」に書きます。

3

一日の中で、決めた遍数をお称えできたら「南無阿弥陀佛」のお名号の「南」の一画目をなぞります。

4

次の日にも、決めた遍数をお称えできたら「南」の二画目をなぞります。

5

その次の日もお称えできたら三画目、さらにその次の日は四画目…というようになぞっていきます。

6

九日分お称えできると「南」がなぞり終わります。十日目からは、「無」の一画目をなぞります。

7

「無」がなぞり終わったら、「阿」「弥」「陀」「佛」もお称えできたら同じようになぞっていきます。

8

五十二日分お称えできると「南無阿弥陀佛」のお名号がなぞり終わります。



9

残り六つの「南無阿弥陀佛」のお名号も、お称えできたら同じようになぞっていきます。

10

七つの「南無阿弥陀佛」のお名号をなぞり終わると、三百六十四日分お称えできたことになります。



お念仏相続とは

あなたがひと声「なむあみだぶつ」ととねえれば、阿弥陀さまに救われるご縁が結ばれ、そのひと声は、あなたが人生を生き抜いていく「芯」となり、「信仰」=心の支え・安らぎとなります。「念仏相続」とは、お念仏をとねえ、その思いを毎日大切に持ち続けていくことです。数を決めて続けることで、毎日のその思いを持ちやすくなります。まずは続けられる少ない数からでも大丈夫です。このご縁を大切に、南無阿弥陀仏のお念仏を続けましょう。



散華（さんか）とは

散華とは、仏さまの乗られている台である「蓮（はす）の華（はな）」を型取ったものです。法要の中では仏さまをお迎えするときにこの「散華」をまいってお迎えし、供養することに使います。お念仏をとねえる我々も、いつかこの命を終え極楽浄土に往生させて頂くときには、お浄土の「蓮の華」の上に生まれさせて頂きます。その思いを持ちながら、ご縁を頂いたその日から、「南無阿弥陀仏」のお念仏を続けて頂けるよう、散華に日々のお念仏を記録できる「一日一筆お念仏散華」としました。

